

補足資料 2

決算情報

公立大学法人大阪の財政状態と運営状況について、貸借対照表と損益計算書によりご紹介いたします。
 なお、数値については単位未満四捨五入のため、合計と内訳が一致しない場合があります。

貸借対照表B/S 貸借対照表は、財政状態を明らかにするため、決算日(3月31日)における全ての資産、負債および純資産を記載しています。

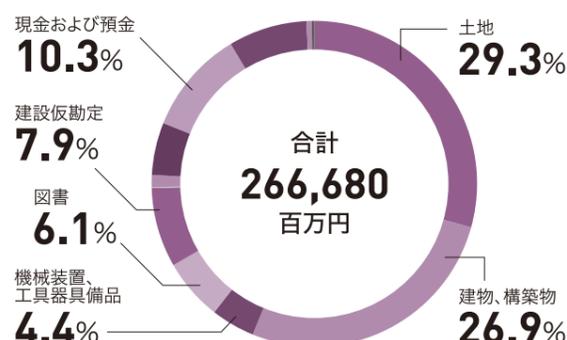
(単位:百万円)			
科目	2022	2023	増減
資産の部	236,632	266,680	30,048
I.固定資産	195,953	216,215	20,263
1 有形固定資産	176,547	199,096	22,549
土地	78,221	78,221	-
建物、構築物	60,541	71,616	11,075
機械装置、工具器具備品	11,540	11,619	79
図書	16,372	16,343	△29
建設仮勘定	9,663	21,080	11,417
その他	209	216	7
2.無形固定資産	4,151	3,236	△915
3.投資その他の資産	15,254	13,884	△1,371
II.流動資産	40,679	50,464	9,785
現金および預金	23,921	27,561	3,640
未収入金	11,132	20,828	9,697
有価証券	5,000	1,410	△3,590
その他	627	665	38
負債の部	89,290	86,424	△2,866
I.固定負債	59,716	23,620	△36,097
資産見返負債	34,512	-	△34,512
長期繰延補助金等	-	1,154	1,154
長期寄附金債務	3,800	3,853	54
長期借入金	4,221	4,117	△104
長期未払金	16,922	14,260	△2,663
その他	261	236	△25
II.流動負債	29,574	62,804	33,230
運営費交付金債務	40	201	161
預り施設費	-	20,851	20,851
寄附金債務	3,953	3,911	△42
前受受託研究費等	1,897	1,723	△174
一年以内返済予定長期借入金	1,082	1,104	23
未払金	20,182	32,042	11,860
その他	2,420	2,971	551
純資産の部	147,341	180,256	32,914
I.資本金	175,933	175,933	-
II.資本剰余金	△39,271	△26,929	12,342
III.利益剰余金(当期末処分利益除く)	11,415	9,188	△2,227
IV.評価・換算差額等	18	92	75
IV.当期末処分利益	△753	21,972	22,725

主な差額要因

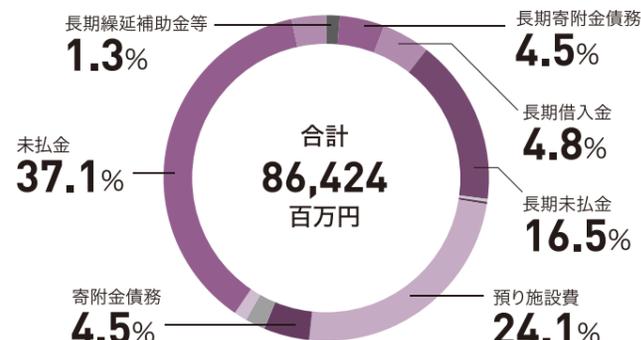
建物、構築物
 杉本キャンパス理学部G棟の完成、中百舌鳥キャンパスの新センター棟、流体力学・構造材料棟および工学新棟の完成により増加しました。

資産見返負債
長期繰延補助金等、預り施設費
 令和5年(2022年)度に地方独立法人会計基準が改訂され、損益を均衡させるために計上していた資産見返負債の会計処理が廃止されました。それに伴い全額を収益化したことにより減少しました。また資産見返負債のうち、補助金を財源とするものは長期繰延補助金等に、施設整備補助金を財源とするものは預り施設費に科目が変更されています。

資産



負債



損益計算書は、運営状況を明らかにするため、一会計期間(4月1日～3月31日)における全ての費用と収益を記載し、当期総利益を表示しています。企業会計とは異なり、公立大学法人は公共的な性格を有し、利益の獲得を目的としていないため、経営成績ではなく、中期計画、年度計画に基づく法人の運営状況を明らかにするために開示されています。

(単位:百万円)			
科目	2022	2023	増減
経常費用	89,967	92,920	2,953
業務費	87,028	90,089	3,061
教育経費	5,016	5,201	185
研究経費	5,281	6,140	858
診療経費	24,345	26,007	1,661
教育研究支援経費	3,610	2,991	△618
受託研究費等	4,874	4,955	81
人件費	43,901	44,795	894
一般管理費	2,631	2,501	△131
財務費用	269	234	△35
雑損	40	98	58
経常収益	88,860	91,036	2,176
運営費交付金収益	28,125	28,532	407
学生納付金収益	9,507	10,647	1,140
附属病院収益	33,641	37,329	3,688
受託研究等収益	5,184	5,244	60
寄附金収益	1,277	1,917	640
施設費収益	2,185	3,034	850
補助金収益	4,585	2,381	△2,204
財務収益	3	18	15
雑益	1,832	1,933	101
資産見返負債戻入	2,520	-	△2,520
経常利益	△1,107	△1,884	△777
臨時損失	△1,859	△530	1,329
臨時利益	1,840	23,883	22,043
当期純利益	△1,126	21,469	22,595
目的積立金取崩額	373	503	129
当期総利益	△753	21,972	22,725

主な差額要因

教育経費 研究経費
 杉本キャンパス理系学舎整備事業および中百舌鳥キャンパス工学系学舎整備事業の進行により増加しています。

診療経費
 患者数の増加や物価上昇の影響により増加しています。

附属病院収益
 入院における病床稼働率及び患者数の増加、外来における単価の増及び患者数の増により増加しています。

臨時利益
 地方独立行政法人会計基準の改訂に伴い、資産見返負債の残高を収益化したことにより増加しています。

費用



収益



項目別経年推移

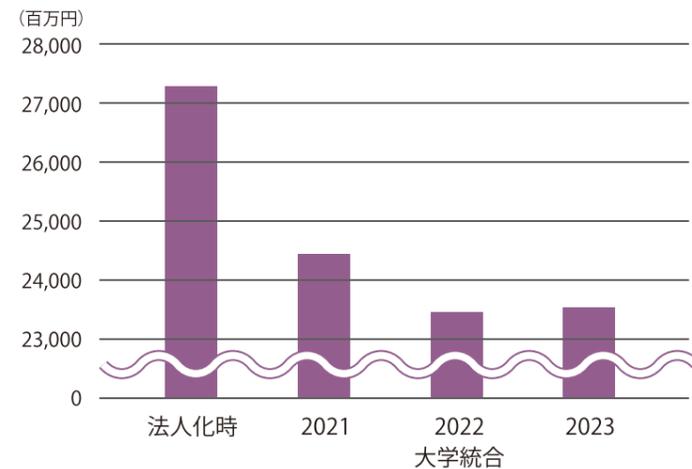
大学

運営費交付金収益

法人化以降、法人化時比で物件費積算額は約30%減少していますが、法人統合大学統合準備にかかる臨時予算として2021年度約21億円、2022年度約7億円、2023年度約5億円措置されています。

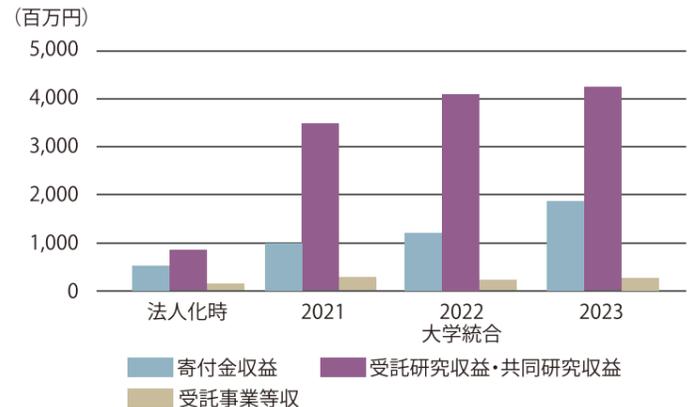
また、2020年度より「大学等における修学の支援に関する法律(国の授業料等減免制度)」が施行されました。このことにより、運営費交付金の収益が制度開始前に比べ約6億円増えておりますが、全額減免費として支出しております。

2023年度は、2022年度に比べ人事勧告に基づく常勤教職員の人件費が約3億円の増加となった一方で、退職手当が約2億円減少したことにより、運営費交付金収益は約1億円の増加となっております。



受託研究等収益・受託事業収益・寄付金収益

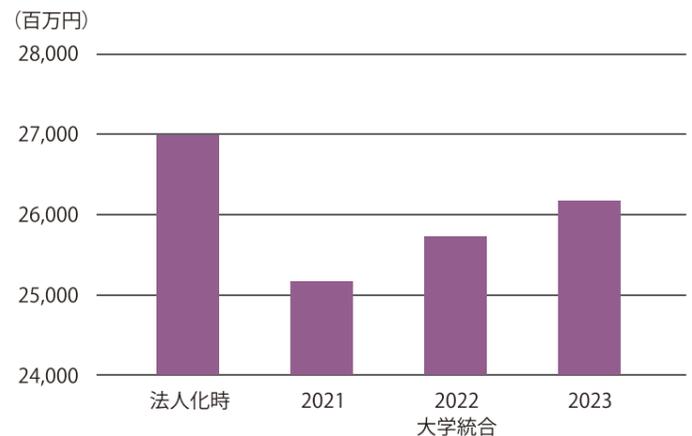
受託研究等の外部資金収益は、法人統合後、大きく伸びてきました。2023年度においても、積極的な獲得活動および研究支援体制の強化、整備等により、受託研究・共同研究・寄付金収益、全てにおいて増加しています。



人件費

法人化後、運営費交付金の減少に合わせて、大幅な人員削減を行ってまいりましたが、法人統合大学統合の準備にあたり2017年度一時的に職員数を増加させる決定を行いました。

増加した職員については、計画的に減少させているところですが、非常勤教職員に対する賞与の対応、人事勧告に基づく給料、賞与の増加、法改正に伴う法定福利費の増加により、人件費総額は増えており、2022年度に比べて約5億円の増加となっております。

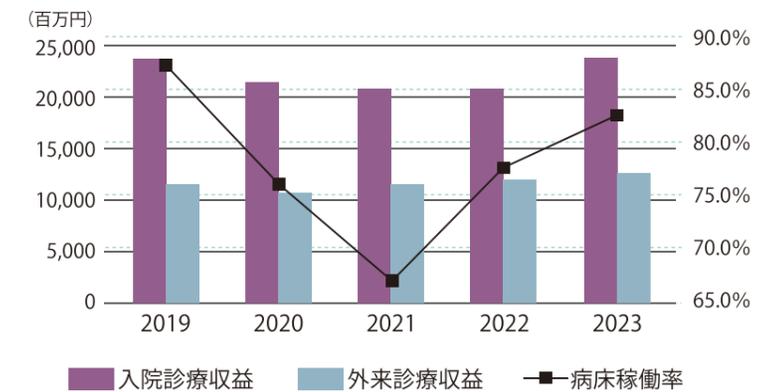


医学部附属病院

入院・外来診療収益・病床稼働率の推移

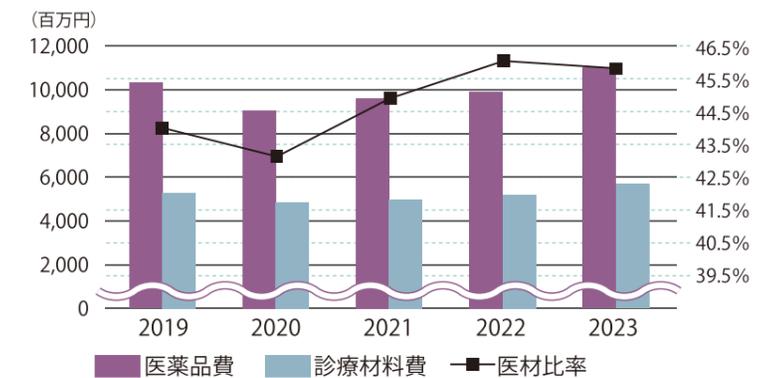
2023年度は新型コロナウイルス感染症が第2類から第5類に移行し、閉鎖病棟を随時オープンするなどの診療体制を整備するとともに、地域連携強化を行うなど患者獲得に努めました。その結果、入院については単価(106,929円→105,000円)が減少したものの、病床稼働率(77.6%→82.6%)及び患者数(194,058人→226,345人)は増加しました。

また、外来については、単価(25,183円→26,489円)、患者数(478,980人→481,250人)ともに増加しました。その結果、入院収益で30.2億円、外来収益で6.4億円増加し、附属病院収益全体で2022年度より、36.6億円増加しました。



医薬品費・診療材料費・医材比率の推移

患者数の増加や物価上昇等に伴い、医薬品費が11億円(98.8億円→109.8億円)、診療材料費が5.0億円(52.0億円→57.0億円)増加しました。しかしながら、附属病院収益が増加したため、附属病院収益に占める医材比率は45.8%に減少しました。



人件費・人件費率の推移

人件費については、給与改定及び機能強化・職場環境改善のための人員増等により、6.0億円(162.2億円→168.2億円)の増加となりました。しかしながら、附属病院収益が増加したため、附属病院収益に占める人件費率(退職金を除くベース)は、46.2%と2022年度より減少しました。

